

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	基礎コンピュータ		
担当教員	金本 直登		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	情報知識を習得し、パソコンの活用実践力を身につけることを目標とする。		
授業計画	1. パソコンの概要 2. WORD 3. WORD 4. WORD 5. 課題作成 6. EXCEL 7. EXCEL 8. EXCEL 9. EXCEL 10. 課題作成 11. Power Point 12. Power Point 13. Power Point 14. Power Point 15. 課題作成		
教科書	『30時間でマスター Office2016』（実教出版編集部:実教出版）		
参考書			
評価方法	WORD、EXCEL、PowerPointの課題結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席等は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	人文・社会科学		
担当教員	金本 直登		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	公務員試験に向けて人文・社会科学分野の基礎力を習得する。		
授業計画	1. 人文・社会科学① 2. 人文・社会科学② 3. 人文・社会科学③ 4. 人文・社会科学④ 5. 人文・社会科学⑤ 6. 人文・社会科学⑥ 7. 人文・社会科学⑦ 8. 人文・社会科学⑧ 9. 人文・社会科学⑨ 10. 人文・社会科学⑩ 11. 人文・社会科学⑪ 12. 人文・社会科学⑫ 13. 人文・社会科学⑬ 14. 人文・社会科学⑭ 15. 後期 まとめ 期末試験		
教科書	よくわかる数的推理(田辺勉:実務教育出版) 速読英単語(早見寛:実務教育出版)		
参考書	配布資料		
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 居眠り注意3回で欠席1とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	解剖生理学Ⅱ		
担当教員	内藤 一郎		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	3単位	時間数	45時間
学習目標	解剖生理学は、人体の構造と機能を理解する科目です。 この科目を学ぶことで、救急救命士に必要な医学の基礎知識を習得することが目標です。 授業は講義中心で進めますが、人に教えてもらう勉強だけでは十分な知識を得ることはできません。自ら学び、自ら考え、自ら体験することで、本当に役に立つ知識を得ることができます。		
授業計画	1. 泌尿器(①構成と役割、②腎の構造) 2. 泌尿器(③尿、④泌尿器) 3. 生殖器系(①男性生殖器) 4. 生殖器系(②女性生殖器) 5. 内分泌系(①内分泌の役割、②内分泌器官の種類) 6. 内分泌系(③各内分泌器官の位置と役割) 7. 血液・免疫系(①血液の構成と役割、②血球、③血漿、④骨髄と脾臓) 8. 血液・免疫系(⑤止血と凝固、⑥免疫の仕組み、⑦アレルギー、⑧自己免疫疾患) 9. 筋・骨格系(①筋の構造、②筋の種類、③全身の主な骨格) 10. 筋・骨格系(④骨の構造と役割、⑤関節の構造と種類) 11. 筋・骨格系(⑥人体と腱、⑦脊柱、⑧全身の骨格と関節) 12. 神経系(①神経系の構成と役割、②脳) 13. 神経系(③脊髄、④脳室と髄液) 14. 神経系(⑤末梢神経系、⑥伝導路) 15. 神経系(⑥伝導路、⑦自律神経、⑧脳循環) 16. 神経系(⑨意識、⑩反射) 17. 感覚器(①感覚の種類、②視覚、③平衡感覚・聴覚) 18. 感覚器(④嗅覚・味覚、⑤皮膚感覚) 19. 皮膚系(①皮膚の構造、②皮膚の付属器、③皮膚の付属器) 20. 皮膚系(④皮膚の役割、⑤乳房) 21. 解剖見学、岡山大学医学部(日時の変更あり) 22. 解剖見学、岡山大学医学部(日時の変更あり) 23. まとめと期末試験		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版) ○×問題でマスター 解剖生理(医歯薬出版)		
参考書	改訂第11版救急救命士標準テキスト上巻(へるす出版)		
評価方法	学科試験のみで評価します。		
備考	難しい内容ですが、予習・復習をしっかりすれば十分理解できる内容です。 他の学生のことを考えて、私語をする方には退出をお願いします。 その他「学生便覧」を参照のこと。 学外講義は災害等により学内講義に変更する場合があります。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	救急医学概論Ⅱ(2) (救急救命士の行う処置他)		
担当教員	山崎 佑介		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	4単位	時間数	60(30)時間
学習目標	病院前救護活動に必要な救急処置の基礎について理解する。		
授業計画	1. 救急救命士が行う処置① 347-353 気道確保、異物異物除去、吸引 2. 救急救命士が行う処置② 354-358 声門上気道デバイスを用いた気道確保 3. 救急救命士が行う処置③ 358-364 気管挿管 4. 救急救命士が行う処置④ 364-371 ビデオ喉頭鏡、気管吸引、酸素投与 5. 救急救命士が行う処置⑥ 372-383 人工呼吸、胸骨圧迫、電気ショック 6. 救急救命士が行う処置⑥ 383-392 静脈路確保と輸液 7. まとめ・中間試験 8 救急救命士が行う処置 392-399 ブドウ糖投与、体位管理、体温管理 9 救急救命士が行う処置 399-405 止血・創処置 10 救急救命士が行う処置 405-414 固定 11 在宅療法継続中の傷病者の処置 428-434 12 傷病者搬送 435-452 13 傷病者搬送 14 傷病者搬送 15 第8回-第14回 まとめ		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版) 347-414、428-452		
参考書			
評価方法	期末試験結果を主体とし、小テストの平均点及び出席状況・受講態度を総合的に評価する。		
備考	補足授業の必要がある場合は、シミュレーション実習Ⅰで行う。 授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	救急医学概論Ⅲ(災害・防災)		
担当教員	曾田 修治		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	地域の公設機関等による災害・防災対応について理解する。 広域災害・防災に対応する機関について理解する。		
授業計画	1. 地域防災① 2. 地域防災② 3. 広域防災① 4. 広域防災② 5. 広域防災③ 6. 広域防災④ 7. 広域防災⑤ 8. 広域防災⑥		
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)222-235		
参考書			
評価方法	レポート提出及び＋出席状況・受講態度を総合的に評価する。		
備考	本講は学外授業を主体とするが諸事情により学内授業となる場合がある。 出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	検査Ⅱ（放射線医学）		
担当教員	山本 章夫		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	放射線の性質、現在の利用状況、危険性を理解し、救急救命士国家試験の合格を最終目標に単位取得をしていく。		
授業計画	1. 放射線の種類と性質 A. 放射能と放射線の違い B. 放射線の種類と性質 C. 放射線の単位 2. 被曝の種類と障害 A. 外部被曝 B. 内部被曝 3. 被曝の種類と障害 C. 体表面汚染 D. 創傷汚染 4. 人体への影響 A. 障害臓器 5. 放射線防御と汚染 A. 現場管理区分 6. 傷病者への対応 B. 被曝の低減策 C. 個人線量計 7. 傷病者への対応 D. 汚染傷病者の取り扱い E. 汚染傷病者の搬送法 8. まとめと期末試験		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)825～840頁		
参考書			
評価方法	期末試験 及び 授業態度		
備考	出席等は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	救急症候・病態生理学Ⅰ（心停止）		
担当教員	曾田 修治		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	心肺停止の概念について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。		
授業計画	1. 心不全（総論） 458-459 2. 心不全① 459-460 3. 心不全② 460-461 4. 心不全③ 461-462 5. 心不全症例検討 6. 心不全まとめ 7. 心停止① 476-479 総論・ウツタイン様式 8. 心停止② 4479-481 9. 心停止③ 4481-483 10. 心停止④ 483-484 11. 救急蘇生法 418-421 12. 救急蘇生法 421-423 13. 救急蘇生法 423-425 小児に対する救急蘇生法 14. 救急蘇生法 423-427 15. まとめ		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト（へるす出版）418-427、458-462、476-484		
参考書			
評価方法	期末試験の得点結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度（居眠り・私語・私服・服装の乱れ等）も評価の対象とする。詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	救急症候・病態生理学Ⅱ（ショック・重症脳障害）		
担当教員	松村 敬則		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	病院前救護に必要な病態生理、症候、現場活動について理解する。		
授業計画	1. ショック総論 463-464 2. 循環血液量減少性ショック① 464-466 3. 循環血液量減少性ショック② 466-467 4. 心原性ショック① 467-468 5. 心原性ショック② 6. 心外閉塞・拘束性ショック① 468-469 7. 心外閉塞・拘束性ショック② 8. 血液分布異常性ショック① 469 9. 血液分布異常性ショック② 10. ショックまとめ 11. 重症脳障害① 470-471 12. 重症脳障害② 471-473 13. 重症脳障害③ 473-476 14. 重症脳障害まとめ 15. まとめ		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)463-469、470-476		
参考書			
評価方法	期末試験の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	補足授業の必要がある場合は、シミュレーション実習Ⅰで行う。 授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	救急症候・病態生理学Ⅲ（意識障害・一過性意識消失と失神・呼吸困難）		
担当教員	草賀 光博		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	発生機序、症候、病態生理について理解し、現場活動に必要な知識を習得する。		
授業計画	1. 意識障害① 486-490 2. 意識障害② 3. 意識障害③ 4. 意識障害④ 5. 意識障害⑤ 6. 意識障害まとめ 7. 一過性意識消失と失神 518-520 8. 一過性意識消失と失神 9. 一過性意識消失と失神まとめ 10. 呼吸困難① 510-514 11. 呼吸困難② 12. 呼吸困難③ 13. 呼吸困難④ 14. 呼吸困難まとめ 15. まとめ・期末試験		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト（へるす出版）486-490、518-520、510-514		
参考書			
評価方法	期末試験の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	補足授業の必要がある場合は、シミュレーション実習Ⅰで行う。 授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	神経・感覚器疾患		
担当教員	松村 敬則		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	救急救命士に必要な神経・感覚器疾患の症候・病態生理について理解する。 症候・病態ごとに観察, 評価, 処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。		
授業計画	1. 神経系疾患 総論 544-545 2. 脳血管障害① 546-550 3. 脳血管障害② 550-553 4. 中枢神経・末梢神経① 553-554 5. 中枢神経・末梢神経② 554-556 6. 神経系疾患まとめ 7. 眼・耳・鼻の疾患 629-633 8. まとめ		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)544-556、629-633		
参考書			
評価方法	期末試験の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	呼吸器疾患		
担当教員	山岸 英雄		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	救急救命士に必要な呼吸器系疾患の病態、症候、診断、治療法を修得する。		
授業計画	1. 呼吸不全① 454-455 2. 呼吸不全② 455-457 3. 呼吸系疾患 総論 557-559 4. 呼吸系疾患 上気道・下気道の疾患 559-562 5. 呼吸系疾患 感染症 562-563 6. 呼吸系疾患 胸膜疾患 563-564 7. 呼吸系疾患 その他の呼吸器疾患 564-565 8. まとめ		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)454-457,557-565		
参考書			
評価方法	期末試験の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	循環器疾患		
担当教員	曾田 修治		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	救急救命士に必要な循環器系疾患の病態、症候、診断、治療法を、救急疾患をを修得する。		
授業計画	1. 循環器系疾患 総論 566-567 2. 虚血性心疾患 567-570 3. 心筋・心膜疾患・不整脈 571-572 4. 心電図・不整脈 573-575 5. 心電図・不整脈 575-579 6. その他の心疾患・血管疾患 580-582 7. 血管疾患・高血圧 582-584 8. まとめ		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)566-584		
参考書			
評価方法	期末試験の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	消化系疾患		
担当教員	山岸 英雄		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	救急救命士に必要な消化器系疾患の病態、症候、診断、治療法を修得する。		
授業計画	1. 消化系疾患 総論 585-587 2. 歯・口腔疾患 587 3. 食道疾患 587-588 4. 胃・十二指腸疾患 588-590 5. 腸疾患 590-592 6. 急性腹膜炎 592 7. 肝臓・胆道・膵臓の疾患 592-594 8. まとめ		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)585-594		
参考書			
評価方法	期末試験の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	泌尿生殖系疾患		
担当教員	山岸 英雄		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	救急救命士に必要な泌尿・生殖器系疾患の病態、症候、診断、治療法を修得する。		
授業計画	1. 泌尿・生殖系疾患 総論 595-596 2. 緊急度・重症度の判断 596 3. 腎臓の疾患① 596-598 4. 腎臓の疾患② 598-599 5. 腎臓の疾患まとめ 6. 尿路の疾患② 600-601 7. 生殖器疾患① 601 8. まとめ		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)595-601		
参考書			
評価方法	期末試験の結果を主体とし、小テストの平均点及び出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	血液・代謝系疾患(免疫・内分泌疾患含む)		
担当教員	草賀 光博		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	1単位	時間数	15時間
学習目標	救急救命士に必要な内分泌・代謝系疾患及び血液・免疫系疾患の病態、症候、診断、治療法を修得する。		
授業計画	1. 内分泌・代謝系疾患 総論 602-603 2. 糖尿病の病態・分類・合併症 603-608 3. その他の代謝異常 608-610 4. 内分泌疾患・栄養疾患 610-613 5. 内分泌疾患まとめ 6. 血液・免疫疾患 614-619 7. 血液・免疫疾患まとめ 8. まとめ期末試験		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)602-613, 614-619		
参考書			
評価方法	期末試験の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	多職種連携演習		
担当教員	曾田 修治		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	3単位	時間数	15時間
学習目標	多職種との連携について理解する。 救急救命に関わる職種に関わらずあらゆる職業を理解する。		
授業計画	1. 多職種連携学① 2. 多職種連携学② 3. 多職種連携学③ 4. 多職種連携学④ 5. 多職種連携学⑤ 6. 多職種連携学⑥ 7. 多職種連携学⑦ 8. 多職種連携学⑧		
教科書			
参考書			
評価方法	レポート提出及び＋出席状況・受講態度を総合的に評価する。		
備考	本講は学外授業を主体とするが諸事情により学内授業となる場合がある。 出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	後期
科目名	救急救命ゼミナール		
担当教員	曾田 修治		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	2単位	時間数	15時間
学習目標	救急救命士の国家試験合格を目指し、専門知識をより深く理解する。		
授業計画	1. 解剖生理学Ⅰ 2. 解剖生理学Ⅱ 3. 救急医学概論 4. 救急病態生理学 5. 救急症候学 6. 疾病救急医学 7. 外傷救急医学 8. 急性中毒学・環境障害		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版)		
参考書			
評価方法			
備考	出席状況・授業態度(居眠り・私語・私服・服装の乱れ等)も評価の対象とする。 詳細は「学生便覧」を参照のこと。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	シミュレーション実習Ⅰ		
担当教員	山岸 英雄 ・ 平木 哲也		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	6単位	時間数	285(143)時間
学習目標	応急手当について指導することができる。 病院前救護で使用する資器材の基本操作を理解する。 病院前救護活動(CPA、急病、外傷)の基本行動を理解する。		
授業計画	73. 救急隊員基本スキル① 74. 救急隊員基本スキル② 75. 救急隊員基本スキル③ 76. 救急隊員基本スキル④ 77. 救急隊員基本スキル⑤ 78. 救急隊員基本スキル⑥ 79. 救急隊員基本スキル⑦ 80. 救急隊員基本スキル⑧ 81. 救急隊員基本スキル⑨ 82. 救急隊員基本スキル⑩ 83. 救急隊員基本スキル⑪ 84. 救急隊員基本スキル⑫ 85. 救急隊員基本スキル⑬ 86. 救急隊員基本スキル⑭ 87. 救急隊員基本スキル⑮ 88. 救急隊員基本スキル⑯ 89. 救急隊員基本スキル⑰ 90. 救急隊員基本スキル⑱ 91 救急隊員基本スキル⑲ 92 救急隊員基本スキル⑳ 93 救急隊員基本スキル㉑ 94 救急隊員基本スキル㉒ 95 救急隊員基本スキル まとめ 96. 隊活動基本① 97. 隊活動基本② 98. 隊活動基本③ 99. 隊活動基本④ 100. 隊活動基本⑤ 101. 隊活動基本⑥ 102. 隊活動基本⑦ 103. 隊活動基本⑧ 104. 隊活動基本⑨ 105. 隊活動基本⑩ 106. 隊活動基本⑪ 107. 隊活動基本⑫ 108. 隊活動基本⑬ 109. 隊活動基本⑭ 110. 隊活動基本⑮ 111. 隊活動基本⑩ 112. 隊活動基本⑪ 113. 隊活動基本⑫ 114 隊活動基本⑬ 115 隊活動基本⑭ 116 隊活動基本⑮ 117 効果測定 118 効果測定		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版) 236-253,278-288,296-358,368-383,435-452		
参考書			
評価方法	効果測定の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。 不適切な髪型や毛染・ピアス・化粧がある場合、見学は不参加。原則、欠席とする。 校外見学中の不適切な言動が認められる場合は未履修とする。		

開講年度	令和7年度	開講期間	通年(後期)
科目名	シミュレーション実習 I		
担当教員	山岸 英雄・平木 哲也		
学年	1年	学科	救急救命
単位数	6単位	時間数	285(143)時間
学習目標	応急手当について指導することができる。 病院前救護で使用する資器材の基本操作を理解する。 病院前救護活動(CPA、急病、外傷)の基本行動を理解する。		
授業計画	119. 隊活動基本⑯ 120. 隊活動基本⑰ 121. 隊活動基本⑱ 122. 隊活動基本⑲ 123. 隊活動基本⑳ 124. 隊活動基本㉑ 125. 隊活動基本㉒ 126. 隊活動基本㉓ 127. 隊活動基本㉔ 128. 隊活動基本㉕ 129. 隊活動基本㉖ 130. 隊活動基本㉗ 131. 隊活動基本㉘ 132. 隊活動基本㉙ 133. 隊活動基本㉚ 134. 隊活動基本㉛ 135. 隊活動基本㉜ 136. 隊活動基本㉝ 137. 隊活動基本㉞ 138. 隊活動基本㉟ 139. 隊活動基本㊱ 140. 効果測定 141. 効果測定		
教科書	改訂第11版救急救命士標準テキスト(へるす出版) 236-253,278-288,296-358,368-383,435-452		
参考書			
評価方法	効果測定の結果を主体とし、出席状況、受講態度等で総合的に評価する。		
備考	授業中の、居眠り・私語・私服・服装の乱れ等も評価の対象とする。 不適切な髪型や毛染・ピアス・化粧がある場合、見学は不参加。原則、欠席とする。 校外見学中の不適切な言動が認められる場合は未履修とする。		